

当院で認めた変異ヘモグロビンを疑う 1 症例

◎中山 梓¹⁾、河野 真吾¹⁾、熊谷 理絵¹⁾、富田 遙加¹⁾、吉田 雅弥¹⁾、山崎 卓¹⁾
熊本赤十字病院¹⁾

【はじめに】変異ヘモグロビンとは、遺伝子変異により赤血球中のヘモグロビンにアミノ酸の置換・脱落や挿入が見られるなど、通常とは異なる構造をしており、血糖コントロールの指標となる HbA1c の値に影響を与える。そのため、変異ヘモグロビンの保有を疑う患者では、血糖コントロールの評価をグリコアルブミンや 1,5AG を用いて行うことが必要となる。2022 年 3 月に機器を更新し、導入したグリコヘモグロビン分析装置 HA-8190V(HPLC 法)の測定にて、変異ヘモグロビンを疑う症例に遭遇したので報告する。【症例】50 代男性、糖尿病既往なし。HA-8190V にて HbA1c5.7%、“異常ピークエラー”を検出したため、メーカーへ高分離分析を依頼。変異ヘモグロビンを保有している可能性があるため、HbA1c 値は参考値となることについて、主治医の了承を得た。【結果】高分離分析にて、「変異ヘモグロビンの可能性が高い」という結果が報告された。報告内容を確認すると、基準となる HbA1c のクロマトパターンに比べ、患者検体では HbA0 のピーク後方に変異ヘモグロビンを

疑うピークが検出されていた。以上のことを踏まえ、変異ヘモグロビンを保有している可能性が高いこと、平均血糖の評価にはグリコアルブミンなど別の指標を用いることが望ましいこと、これ以上の精査は遺伝子解析が必要となることを主治医へ報告した。【まとめ】HA-8190V 運用開始後 3 ヶ月の結果を確認すると、約 0.14%(6 件/4349 件)で異常ピークエラーを認めていた。これまでに異常ピークエラーでメーカーに高分離分析を依頼した 4 件のうち、3 件で変異ヘモグロビンを保有している可能性が高いという結果が報告されている。HbA1c は、血糖コントロールの評価に用いられる一般的な項目である。その測定に影響を与える変異ヘモグロビンの存在には注意しなければならないが、そのためにはまず、その存在を認識することが必要である。今回の機器更新で変異ヘモグロビンの検出が可能となったため、より適切な情報提供をするとともに臨床へ適宜アナウンスしていくことが必要である。
連絡先：096-384-2111(内線 6372)